

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	吉井介護事業所 グループホームよしいの郷 A棟		
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	令和 4年 1月 13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 3月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ自然豊かな環境の中で、お一人お一人の能力や機能、時間に合わせゆったりと穏やかな時間を過ごして頂いています。医療との連携も図りながら、状況に応じ看取りも行い、入居者が共に安心して生活できる環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれた環境の中に建ち、広々とした庭園には梅の木や季節の花が咲き、開放的である。理念の中にある、その人の今を大切に、その人らしい暮らしを支え、食事、起床、就寝時間などにも柔軟に対応している。また3人の看護職員が在勤しており、訪問看護との連携で行う看取り支援は、家族等や職員の信頼と安心に繋がっている。居室から出入りできる広いウッドデッキでは、外気浴も兼ね、おやつや弁当を食べたり新型コロナ禍でのストレス解消に活かされている。「笑顔、思いやり、優しさ」を接遇向上の目標に定め、管理者と職員が意識しながら支援を行うことで、入居者の笑顔や穏やかな表情が覗える。各ユニットの静養室は、厚いビニールカーテンでゾーンを仕切る感染対策を講じており、入居者の命を守る取組が家族の安心と信頼に繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初からの理念をスタッフが共有し、時折初心に戻って業務に当たれるよう、施設内に掲げスタッフ会の折に確認しあっている。	事業所は、その人の今を大切にし、安心してその人らしい暮らしを守る環境の提供を目標に掲げている。人との関わりや共同生活の大切さを管理者と職員、確認し合い、理念を共有して実践に繋げている。入居者の習慣やペースにも柔軟に対応しており、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1度職員が、事業所周辺のゴミ拾いを実施しており、地域の方とも挨拶を交わしたり、お声をかけて頂いている。	自治会の一員として、回覧板を回したり事業所周辺の清掃を定期的実施している。地区夏祭りに職員の手伝い参加や中学生の職場体験、短大生の実習、園児の訪問なども新型コロナ禍で現在は見送っている。隣接する介護事業所と共に地域に密着し、地域福祉の拠点となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか場を設けることはできていない、運営推進会議の中などで質問があったことに対し、支援の方法などお話しさせていただくことはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重なご意見を頂きながら実践できることは前向きに取り込んでいる。	年6回、コロナ感染状況を踏まえ書面、対面会議を行政、警察、家族、地区代表等規定の委員で行っている。身体拘束適正化関連、入居者状況、ヒヤリハット、事故報告等詳細な議事録が確認できる。書面会議は資料を配付し、返送された意見や提案をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は行っている。特に生保の方や、認定調査の際には情報を伝達している。	市からコロナ状況、ワクチン連絡、スクリーニング検査についてなど連絡がある。身体拘束廃止やコロナの研修は、管理者がWebで受講し資料は職員間で共有している。介護保険の申請や更新等、行政の窓口に出向いている。担当課職員とは現在は電話で情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、一人一人の尊厳を尊重しながら、身体拘束を行わない方針でケアにつなげている。安全面を考慮し必要時にはご家族とも話し合い、同意を頂いている。	身体拘束、虐待防止の研修会を年2回実施し、身体拘束等の適正化対策委員会は運営推進会議の中で開催している。玄関の施錠は夜間のみで、言葉での制止も言い換えの言葉を使う等、抑圧のないケアに努めている。足下センサーは次の動作の安全のためと捉え、外す検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会の折に、研修を設け意識を高く持つように職員間で内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本所にて日常生活自立支援事業等行っているが、実際に現場では機会がなく勉強不足である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際や解約の際にも説明や質問に対し受け答えし、その後も不明な点があった場合はその都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等でご意見があれば伺っている。また運営推進会議の際はご家族代表から直接ご意見を頂いている。	新型コロナ禍で面会を中断しており、ガラス越しの対面の他、遠方の家族もリモートでの面会を行っている。その他、電話で要望や意見を聞き取った内容は記録して回覧し職員間で共有している。これまでに、衣服や茶葉への要望や中庭に桜の植樹を薦めるアドバイスなどがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の為になること、また職員が従業しやすい職場づくりをするために可能であることは小さなことから少しずつ業務の見直し等もおこなっている。	毎月のスタッフ会で職員が意見を出し合っている。年1回、所長が職員面談を行っており、職員の要望から、働き続けることができる職場を目指し、休憩が取れるように所定の場所を設定し、職員が交替して休憩できるよう工夫している。リモート面会も職員のアイデアを反映している例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や、資格や能力にも応じながら勤務しやすい体制を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修はなかなか参加が難しくなっているが、スタッフ間で、入居者の個別的な介助法などを学び合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でじっくりと交流する機会は取れなかったが、業務の中で他事業所の職員と情報交換できる時はしており、学ばせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されしばらくは本人も不安が大きくなれる事から、スタッフ全員で細かに観察し、声掛けしている。交代制の勤務であるため必要事項は申し送りもしっかり行うよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご要望などを確認するようにしているが、入所後も状態を報告しながら、ご家族の不安な点などあれば確認し、対応などを見直すところがあれば行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型共同生活介護で単独のサービスの利用となることがほとんどであるが、他に活用できる社会資源などあれば取り入れたいと思っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が普段どういう気持ちで生活されているのかを見極め、またその日その時の認知症の状態にも応じこちらの対応を合わせ、本人にできる事をお願いしたり、役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会も難しくなったが、面会以外に本人に家族との交流をできる方法を考え、入居者の方が安心できるようこちらからも相談できることはしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会等は減っており、今後コロナが終息したら、また気軽に面会等できるようにご案内していきたい。	新型コロナ禍で面会が難しい中、毎週電話を掛けてくる遠方の家族やリモートでの面会を楽しんでいる入居者・家族もいる。入居者によっては、携帯電話を所持している他、手紙を書いて投函している。また、感染者数が減少している時期に、職員が支援し馴染みの美容院に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性を把握し、気が合う方同士の関係性を大事にし、席の配置等も配慮している。声を掛け合ったり、手を握りあったり、お互いに心を通わせ穏やかな表情をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には丁寧に対応するように配慮している。気になるケースの方などこちらからお声掛けすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発語ができる方は口頭で確認したり、本心はどうか見極めながら、発語ができない方は特に、表情を見ながら本人が少しでも不安や苦痛を感じない事を一番に考慮し、生活を支えるよう心掛けている。	職員は、毎日、入居者の口調や声のトーンを重視し、本人がどんな思いであるかを考えている。笑顔で接することで、入居者の笑顔を引き出すよう支援しており、難聴の入居者にはジェスチャーや筆談で会話している。ターミナルケアの入居者には苦痛がないよう本人の立場に立って介護方法を検討し最善のケアを提供するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に確認しながら、昔の生活の話題も時々会話に取り入れ、昔を思い出してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態変化があらわれる方もおり、その時その時での対応を替えながら、引継ぎを行い、本人が持っている残存能力は大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会の折に話し合い意見を取り入れている。また日々の記録をもとに月々状態や評価を確認するようにしている。	介護計画は長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標設定である。モニタリングは月1回、カンファレンスは3ヶ月毎に実施し、毎日のケアプラン実施表を見直し時に活かしている。状況変化時や退院後は、医師の指示を入れ、即見直しを行っている。ただし、家族等の要望や意見があまり変わっていない。	介護計画は、本人の望む暮らし方の基本であるため、更に本人・家族等の意向を掴み、プランに繋げる工夫が望まれる。また計画作成担当者が担っている業務を分担するなど、職員が前向きに能動的に関わる取組に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録と共に日中や夜間通してスタッフが確認できるようにしている。ケアプラン作成時は記録も振り返りながら検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにおいては単独であるが、日々の細やかなケア等は小規模だからこそできる事をメリットとし柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の地域資源との協働としては今後出来ることを模索して少しずつ取り入れていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一番は入居者やご家族の要望を重視し、かかりつけ医との連携を図り、本人に必要な医療は前向きに受けれる体制を取っている。また専門医の受診も紹介状を依頼し積極的に受診している。	利用開始前からの専門医の継続があり、協力医の往診や眼科等の専門医への通院等、適切な医療受診を支援している。通院介助は職員対応で、受診結果や薬剤変更など家族に伝え情報共有している。緊急時や検査時には家族も同席している。歯科の訪問診療や訪問看護連携もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護保険料の中に医療連携加算が含まれており、正看護師の配置があり、入居者の状態報告を細やかに行っており、受診も積極的にできる環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は、担当のソーシャルワーカーさんと入院中も何度か情報交換を行いながら、必要時は退院前に面会なども行い、退院後の生活がスムーズに行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に終末期の指針を表示し説明を行っている。また、その方の状態により、必要な段階でその都度ご家族の意思確認を行っている。また訪問看護を取り入れる場合は入居者を支えるチームとしてご協力いただいている。	重度化した場合における対応と看取りに関する指針があり、入居時に説明し意思確認の同意書を得ている。段階を踏んで、その都度、意思確認を行っている。看護職員の配置や主治医、訪問看護の連携で看取り支援に取り組み、看取り後に職員にアンケートを取り、振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ十分ではないがある程度の対応はできるよう努めている。また個別での対応が変わる方もいるため、まずは正看護師に24Hオンコールで状態報告するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	可能な限りで実施している。また3月に地域の方との合同避難訓練を計画している。(コロナの状況により) 火災を未然に防ぐ為に施設の造り上火を使わない構造になっている。	年2回、昼夜想定で消防避難訓練の実施がある。消防署立会いの計画は、新型コロナ禍で今期は見送りとなっている。職員の緊急連絡網はグループLINEが機能している。持ち出し品や水、食料など備蓄もあり宿直員の在籍は心強い。ただし、自然災害の具体的な想定での避難訓練はこれからである。	想定外の自然災害に備え、事業所に即した具体的な想定での避難訓練の実施と、職員が災害時に慌てずに、対処できるよう災害避難訓練の回数増が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修でも身体拘束、高齢者虐待防止の観点からも学び、心掛けている。	事業所では、入居者の人格を尊重した支援を基本としており、苗字にさん付けで呼んでいる。また、トイレ介助や入浴支援にて同性介助の希望がある場合は、希望に沿って職員が交替している。また、失敗時はさりげなく声掛けして対応し羞恥心に配慮している。ただし、トイレ内にあるパッド類の袋が目につくところにある。	入居者の尊厳を守るためにも、パットやオムツ等の保管場所の検討、取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全員の方は難しいこともあるが、本人の意思を尊重した生活支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここが第二の自宅と思えるように共同生活の中でも、自分の時間を大事にして頂けるよう、その日その日に合わせた対応を出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は特にその方の好きな色などを意識し、毎朝の洗面整髪なども本人が出来る方はご自分でして頂き、最後はスタッフが確認してお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は現在難しく出来ないが、台拭きなどでは出来る方が時々して頂いている。食事は個人の嗜好を把握しながら、出来るだけおいしく食べて頂けるよう工夫し提供している。	昼は併設のデイサービスから食事が届いており、朝夕は各ユニットの職員が調理している。入居者の嗜好を把握し、誕生日は本人のリクエストに応じて提供している。正月、敬老の日、クリスマス等行事に合わせた食事は入居者の楽しみである。日曜日は手作りおやつの日として、おはぎやホットケーキを作って楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人差があるため、また主治医とも確認しながら、水分量や食事量、塩分量など本人の体調にも合わせた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥しそうな場合は口ゆすぎが困難なため、口腔シート等使用している。また在宅からのかかりつけの歯科を持たれている方は訪問診療にて定期的に口腔検査をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子でも立位が可能な限りはトイレ誘導を行い排泄支援を行っている。	排泄チェック表をつけることで、排泄パターンを把握し、声掛けし誘導している。退院後は脚力が弱っていることが多く、歩行訓練を兼ねてトイレまで歩き排泄するよう支援している。布パンツで過ごす人もいる他、パッドのサイズは本人の状態に合わせて職員間で検討し、適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は特に牛乳やオリゴ糖を毎朝摂取していただいている。また毎日軽体操などを行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事故防止の為にある程度予定は立てているが、本人の体調や気分により無理強いすることなく入浴を実施している。	週2回の入浴を支援しており、季節を感じるができるようゆず湯を提供している。浴室の中央に浴槽があり、職員が支援しやすい配置である。入居者の状態によって足浴とシャワーチェアで介助している。利用希望に沿って同性介助で対応しており、1対1で昔の話や歌を歌うなど入浴が楽しい時間となるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人差があるので状態をみながら、休息を促している。室温や、布団調整、明るさなども調整行っている。また個人によってはCDを流しながら入眠を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後は薬の処方も内容確認をするように十分に記録を残し、確認しやすいところに、全員分の服薬ファイルを置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化と重度化に伴い、意思表示や、運動機能の低下などで難しいことも増えておられるが、嗜好品などはこちらから提供させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を控えており、近年は難しくなっている。	コロナ禍前は、桜やコスモスなどの花見にドライブしたり、正月に自宅に帰宅する入居者もいた。現在は、広いデッキを利用して外気浴したり、時には庭で昼食やお茶を楽しんでいる。また、受診の帰りに庭を車椅子で散歩し、梅の花の写真を撮る入居者もおり、戸外での気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は基本的に金庫でお預かりしているが、本人が必要なものなど要望があれば、購入のお手伝いをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望がある方は手紙や電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気も行いつつ、室温調整したり、加湿器を使用したり、装飾もその時の季節に応じ変えている。	中庭に面したりリビングは、自然光が優しく植木等で季節感もある。季節の花を飾り、入居者が好きなソファや椅子で寛ぎ、テレビ体操を行う様子が覗える。職員は日に2回消毒や掃除を行い、清潔保持に努めている。入居者が自由に、居心地よく過ごせるよう職員が工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の性格や状態を見極めながら、慎重に対応している。状況が変われば、席替えもその都度検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく快適に過ごしていただけるように、またご家族との写真やからのプレゼントなども飾ったりしている。	居室はベッドとクローゼットの設置と、フローリングと畳の部屋がある。畳にマット、布団を敷く入居者もいて、自宅からテレビ、仏壇、使い慣れたタンス、椅子等の持ち込みがある。机に孫や家族の写真、鉢植えの花などがあり、個性がみえる。職員が掃除、消毒、換気、温湿度管理を行い、清潔で寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等は個人の居室から出た時もわかりやすいように表示したり、工夫している。手すりやセンサーライトやセンサー水栓(洗面所)などの設備も入居者が生活しやすいように設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームよしいの郷 B棟		
所在地	佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	令和 4年 1月 13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 4年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ中庭からは季節を感じさせる風景が見られ楽しむことができる環境です。安心して過ごせるように安全面に配慮し毎日穏やかに暮らせるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームよしいの郷 B棟
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月スタッフ会で理念を確認しながら読み上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の夏祭りに参加したり、消防訓練を行なうなどしていたがコロナ過により昨年からは実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し施設内のできごと、事故やヒヤリハット報告をしている。その際の助言などは今後の支援に繋げていくよう務めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会に保健師1名の参加がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月スタッフ会で身体拘束について確認、見直しをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	支援をしていくなかで言葉使いや対応の仕方などを見直しスタッフ会で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用する機会はないが研修などがあれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書で説明するなどしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族からの要望などを聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見を常に聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから嘱託職員、嘱託職員から正規職員に雇用変更があるので、やりがいのある職場になるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに参加し認知症ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会からの情報などもらう機会はあるが昨年より研修もリモートになり交流が出来ない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を収集し今までの生活環境などを元に安心して生活ができる環境作りを考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も不安になられていると思うので困っていることや要望を聞き関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされるニーズをみつけその人らしい生活を送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ残存機能を失わないように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに状態報告し外出、通院など家族にも協力してもらっている。(現在はコロナ過で中止)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会もあり喜ばれている利用者もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションを皆で一緒にしている。脳トレの計算問題も隣同士で考えたり教え合ったりなどされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設外でお会いした時は声掛けし近況をお伺いすることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望が実現できるために必要な支援を話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を把握し支援に繋がるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせて支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援を行いながら見直しなどを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ケース記録の記入を確実にし申し送りなども含め職員間の情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時は対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の社会資源を把握し必要な時は利用できるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては家族の希望を優先している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化がある時は看護師へ報告し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はGHからの情報提供表を渡し施設内での様子を伝えている。退院時は看護サマリーでの情報をスタッフ全員で周知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方についての説明を行い同意の確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年AEDの研修があったが去年は出来なかったため急変時の対応の手順はスタッフ会にて周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	コロナ過で、地域の方との避難訓練など大々的なものは出来なかったが事業所内での訓練は実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面時に髪を整えてもらうよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなメニューにしたり、旬の食材を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など本人に合わせて調整したりなど状態をみて対応している。水分摂取量に関しては本人の好むものを提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。ほとんどの方は自分でされているができない方は介助し仕上げの確認をしている。義歯消毒は毎晩行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記入しており時間をみてトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院から薬を処方してもらい、毎朝、牛乳を飲んでもらうなど便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の皮膚状態なども考慮し、入浴日や時間は固定しているが体調や気分の状態で臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に注意し良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は通院記録に記入しスタッフ全員が周知するようにしている。服薬チェック表を活用し服薬内容などの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が自由にできないので天気のいい日は中庭で昼食、おやつを食べたりなど気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、ドライブ外出なども自粛している。		

グループホームよしいの郷 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望され所持されているが、使うことは殆どない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出される方には切手の購入、投函などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在、常時換気を行っているため室温、湿度に気を付けている。また、廊下や玄関の壁には季節ごとの飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでテレビを観たり、自室でゆっくり過ごしたりなど自由に過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所する際、ご本人が愛用されていたものはそのまま使っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりがあり安全に過ごせるようにしている。		